

住友スリーエムでは「ウインドウフィルム劣化診断」を実施中です。

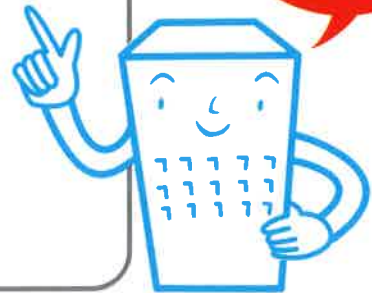
ウインドウフィルムには寿命があります

施工後10年が目安です

ウインドウフィルムの劣化診断

【フィルムの製造メーカーは問いません】

無料
診断中



貼りっぱなしになっていませんか？ フィルムの性能が劣化しているかもしれません。

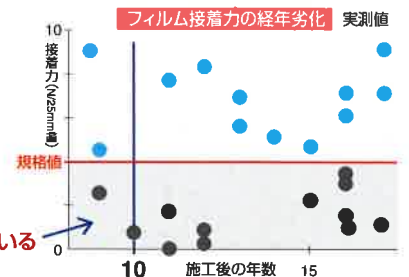
ウインドウフィルムは有機材料でできているので、紫外線や熱線、周囲の湿度、空気中のオゾンなどによって次第に劣化します。劣化が進むと「飛散防止」「日射調整」などの機能が低下して本来の性能を発揮できなくなります。

地震対策のために貼った飛散防止フィルムなのに、いざ！という時に飛散を防止できない…、そうならないために3Mではウインドウフィルムの劣化診断をおすすめしています。

施工後10年が経過していたら「ウインドウフィルム劣化診断」をお受けください。

ウインドウフィルムの劣化の度合は使用環境によって大きく異なるため一概には耐用年数を定められませんが、右のグラフ下部の●印になっている値を示したフィルムは、飛散防止性能が失われてしまっています。

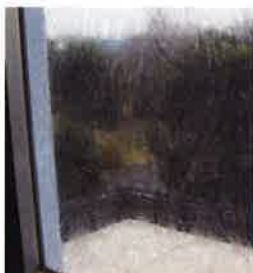
施工後10年程度が経過している場合はフィルムの性能確認のためにもウインドウフィルム劣化診断をお受けください。診断によって、引き続き安心してお使いいただける状態か、それとも貼り替えが必要なかが分かります。



ウインドウフィルム劣化診断

外観検査(目視)

フィルムの曇り、景色の歪み、膨れ、ひび割れ、端部の剥がれ等を細かくチェックします。



粘着剤の劣化による浮き



外貼り飛散防止フィルムの白化



粘着剤劣化による像のくもり



日射調整フィルムの金属膜劣化

物理特性検査

JIS規格値を満足しているかどうかを測定します。

接着力測定

破断強度測定

伸び率測定

光学特性測定



診断結果報告書

飛散防止フィルムの場合は、外観検査と物理特性検査の結果を基に、フィルムがJIS規格値を満たしているかどうかを判定します。日射調整フィルムの場合は、日射遮蔽効果に対してどれくらい下がっているか等を判定します。測定数値と判定結果を報告書としてご提出いたします。

劣化によってフィルムが飛散防止効果を失っている場合はフィルムの貼り替えを推奨させていただいております。フィルムの貼り替えについては裏面をご覧ください。

※現場の状況によっては有償になる場合があります。弊社担当者にご相談ください。